

環境保全中長期目標と実績

異常気象など気候変動に起因する影響が顕在化する中、世界の温室効果ガス削減の動きは活発化しています。地球規模の環境問題は「食料確保」や「安心安全な水の確保」にも大きな脅威を与えます。

クボタグループは、環境経営を推進しサステナブル企業として、SDGsやパリ協定などの様々な社会動向をふまえ、環境保全に関する中長期目標を策定して活動を推進しています。2016年には「環境保全長期目標2030」および「環境保全中期目標2020」を策定しました。この度、活動期間を2021年から2025年とする「環境保全中期目標2025」を新たに策定しました。これらの目標達成に向けて生産および製品開発段階において計画的に取り組みを進めています。また、クボタグループの目標項目とSDGsのゴールやターゲットを照らし合わせ、課題解決に貢献できる領域を特定しています。

環境保全中期目標2025の策定

グローバル生産拠点については、前回の「環境保全中期目標2020」で定めていた指標に加え、脱炭素社会実現に向けて再生可能エネルギー利用率の向上を目標に追加しました。また、使い捨てプラスチックによる海洋汚染が世界的な問題となっていることから、資源効率向上に関する定性目標を追加しました。その他、排水管理や生物多様性の保全についても、計画的な取り組みを促進するために定性目標としました。

製品分野では、リサイクルの推進を目的として、新規部品の素材表示に関する目標を新たに定めました。

対象	課題	取り組み項目	管理指標	基準年度	2025年度目標 ^{*9}
グローバル生産拠点	気候変動への対応	CO ₂ 削減 ^{*1}	CO ₂ 排出原単位 ^{*2} 【新規】再生可能エネルギー利用率	2014	▲25% 1%以上
		省エネルギー推進	エネルギー使用原単位 ^{*2}	2014	▲18%
	循環型社会の形成	廃棄物削減	廃棄物排出原単位 ^{*2} 【新規】有害廃棄物排出原単位 ^{*2,3}	2014	▲33% ▲3%
			再資源化率(国内)	—	99.5%以上を維持
			再資源化率(海外)	—	90.0%以上を維持
		資源効率向上	【新規】資源の有効利用を促進するため次の3点に取り組む (1)事業所内での使い捨てプラスチック削減 (2)取引先と協働し梱包材の省資源化、リターナブル化 (3)ペーパーレス化		
	水資源の保全	水資源節約	水使用原単位 ^{*2}	2014	▲23%
		排水管理	【新規】排水処理設備や水リサイクル設備の運用により、排水の放流先の基準に応じた適切な排水管理を行う		
	化学物質の管理	VOC削減	VOC排出原単位 ^{*2,4}	2014	▲42%
	生物多様性の保全 (非生産拠点も含む)	事業所での生物多様性の保全	【新規】事業所内の緑化やビオトープの設置などを通して、自然環境の保護と生物多様性の保全を推進する		
		社会貢献活動の推進	【新規】社会貢献活動として地域の自然環境保護や生物多様性の保全を推進する		
製品分野	製品の環境性能向上	エコプロダクツの拡充	エコプロダクツ認定製品売上高比率	—	70%以上
		リサイクルの推進	リサイクル素材使用率 ^{*5} 【新規】新規部品の素材を表示し、素材情報を提供する ^{*6}	—	70%以上を維持
			最新の排出ガス規制(Stage V)に対応した産業用ディーゼルエンジンを開発し、搭載製品を市場に投入する ^{*7}		
		排出ガス規制対応	【新規】最新の車両排出ガス規制に適合した車両を市場に投入する ^{*8}		

^{*1} CO₂排出量はスコープ1およびスコープ2を対象

^{*2} 原単位は生産高当たりの環境負荷量を示し、海外拠点の生産高を円換算する際の為替レートは、基準年度の値を使用

^{*3} 日本国内は特別管理産業廃棄物、海外はその国や地域の法令で定められた有害廃棄物を対象

^{*4} VOC(揮発性有機化合物)は、クボタグループでの排出量に占める割合が大きい、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質を対象

^{*5} 鋳物製品・部品(ダクタイル鉄管、異形管、機械鋳物(エンジンのクランクケース等))でのリサイクル素材使用率(%)

^{*6} 対象部品は社内表示基準による

^{*7} 欧州排出ガス規制(欧州 Stage V)相当に対応したエンジンを搭載した欧州・北米・日本・韓国向けトラック、コンバイン(出力帯: 56kW ≤ P < 560kW)を対象

^{*8} EPA Exhaust Emission 規制(排出ガス規制)、EPA Permeation Emission 規制(燃料蒸散規制)相当に対応したガソリンエンジンを搭載したユーティリティビークルを対象

^{*9} ▲は「マイナス」を示す

環境保全長期目標2030および実績

クボタグループは、「環境保全長期目標2030」の達成に向けて、実効性の高い活動を展開するためのアプローチとして、5年ごとに「環境保全中期目標」を策定しています。



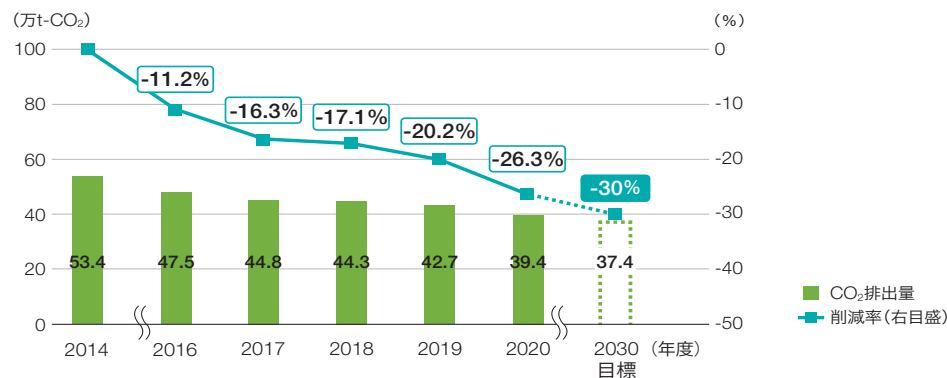
気候変動への対応



目標	2030年に、国内クボタグループのCO ₂ 排出量*を2014年度比で 30%削減 します
実績	2020年度は、国内クボタグループのCO ₂ 排出量*を2014年度比で 26.3%削減 しました

*CO₂排出量はスコープ1およびスコープ2を対象とし、非エネルギー起源の温室効果ガスを含みます。

国内クボタグループCO₂排出量の推移

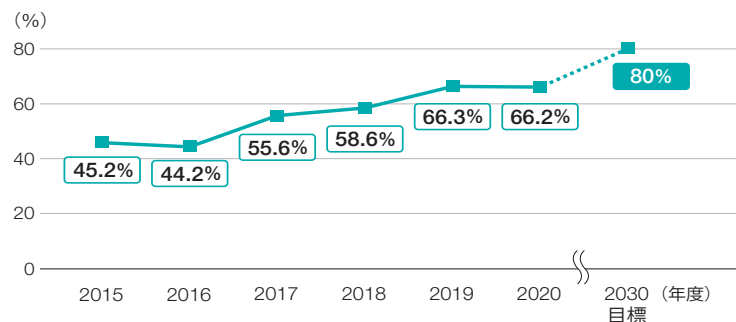


環境配慮性の高い製品の開発



目標	エコプロダクツ認定製品売上高比率*を2030年に 80%以上 にします 2030年以降に上市する新製品はすべてエコプロダクツ認定製品をめざします
実績	2020年度のエコプロダクツ認定製品売上高比率*は、 66.2% でした

エコプロダクツ認定製品売上高比率の推移



*エコプロダクツ社内認定制度で基準をクリアした製品の売上高比率
 エコプロダクツ認定製品売上高比率(%) = エコプロダクツの売上高 ÷ 製品の売上高(工事、サービス、ソフト、部品・付属品を除く) × 100

各指標の算定方法は「環境パフォーマンス指標算定基準(P98)」を参照してください。

「KUBOTA REPORT 2021 フルレポート版」に記載の環境情報は、KPMGあずさサステナビリティ株式会社の第三者保証を受けており、保証の対象となる指標には「Q」マークを付しています。

環境保全中期目標2020

2016年度より「環境保全中期目標2020」に向けて取り組みを進めてきました。拠点および事業部ごとに対策を立案し、事業量や事業内容の変化による影響を考慮した上で、実施計画を策定し、実行しました。2020年度は、この中期目標の最終年度でした。グローバル生産拠点では、コロナ禍により生産減となりましたが、削減対策の効果もあり、2020年度実績は、全ての指標で目標を達成することができました。製品分野においても、全ての目標を達成することができました。新たにスーパーエコプロダクツ2件を含む40件をエコプロダクツとして認定し、売上高比率は66.2%となりました。

グローバル生産拠点の目標

SDGs	課題	取り組み項目	管理指標*3	基準年度	2020年度目標*5	2020年度実績*5	進捗状況
	気候変動への対応	CO ₂ 削減*1	CO ₂ 排出原単位	2014	▲14%	▲18.6%	生産設備や照明・空調の省エネや燃料転換、再生可能エネルギーの導入、建築物の断熱対策等を推進しています。
		省エネルギー	エネルギー使用原単位	2014	▲10%	▲15.7%	
	循環型社会の形成	廃棄物削減	廃棄物排出原単位	2014	▲10%	▲28.7%	分別管理の徹底や有価物化を推進しています。
			再資源化率*4 (国内)	—	99.5%以上を維持	99.5%	継続的な活動により従来のレベルを維持しています。
			再資源化率*4 (海外)	—	90.0%以上を維持	91.8%	委託先の変更により、埋立処分量の削減を推進しています。
	水資源の保全	水資源節約	水使用原単位	2014	▲10%	▲20.8%	排水の再生利用、節水活動を推進しています。
	化学物質の管理	VOC削減*2	VOC排出原単位	2014	▲10%	▲37.7%	VOCを含む塗料・シンナー類の廃止や削減を推進しています。

製品分野の目標

SDGs	課題	取り組み項目	管理指標	2020年度目標	2020年度実績	進捗状況
	製品の環境性能向上	エコプロダクツの拡充	エコプロダクツ認定製品売上高比率*6	60%以上	66.2%	2020年度は新たに40件を「エコプロダクツ」に認定しました。
		リサイクルの推進	リサイクル素材使用率*7	70%以上を継続	72.5%	目標を超えるリサイクル素材使用率を維持しています。
		排出ガス規制対応	最新の排出ガス規制に対応した産業用ディーゼルエンジンの開発と搭載製品*8の市場投入	排出ガス規制に対応したエンジンを搭載した以下の製品*9を市場投入しました。 トラクタM7003シリーズ M7153 ・欧州EU規制(56kW以上130kW未満 Stage V)適合 アグリロボトラクタ MR1000A ・国内特自規制(75kW以上130kW未満 平成26年規制)適合		

*1 CO₂排出量は、スコープ1およびスコープ2を対象とし、非エネルギー起源の温室効果ガスを含みます。エネルギー起源CO₂の算定において、電力の排出係数は基準年度の値を使用します。

*2 VOC(揮発性有機化合物)は、クボタグループでの排出量に占める割合が大きい、キシレン、トルエン、エチルベンゼン、スチレン、1,2,4-トリメチルベンゼン、1,3,5-トリメチルベンゼンの6物質を対象としています。

*3 原単位は生産高当たりの環境負荷量です。海外拠点の生産高を円換算する際の為替レートは、基準年度の値を使用します。

*4 再資源化率(%)=(有価物売却量+社外再資源化量)÷(有価物売却量+社外再資源化量+埋立量)×100 社外再資源化量には熱回収量を含みます。

*5 ▲は「マイナス」を意味します。

*6 エコプロダクツ社内認定制度で基準をクリアした製品の売上高比率

エコプロダクツ認定製品売上高比率(%)=エコプロダクツの売上高÷製品の売上高(工事、サービス、ソフト、部品・付属品を除く)×100

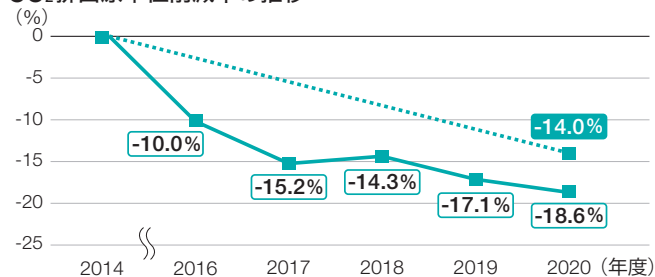
*7 クボタグループで製造する鋳物製品・部品(ダクトイル鉄管、異形管、機械鋳物(エンジンのクランクケース等))でのリサイクル素材使用率(%)です。

*8 欧州排出ガス規制(欧州 Stage IVおよびV)相当に対応したエンジンを搭載した欧州・北米・日本・韓国向けトラクタ、コンバイン(出力帯:56kW≦P<560kW)を対象とします。

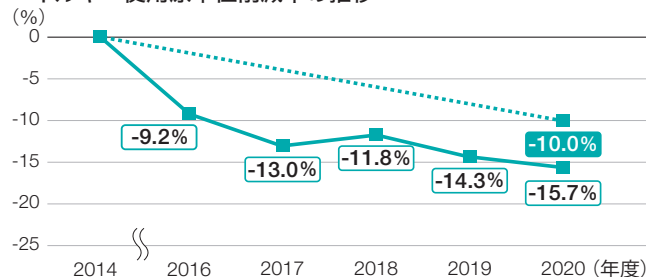
*9 2020年度に市場投入した製品の一部を記載しています。

▶環境保全中期目標2020に対する実績の推移

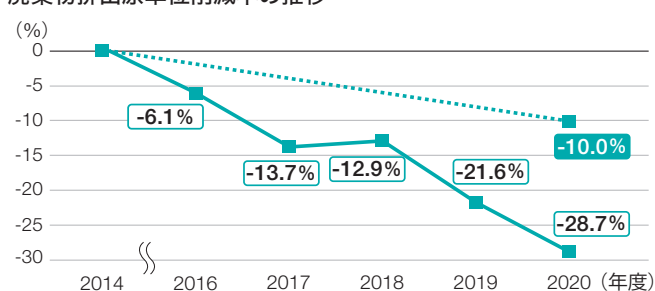
CO₂排出原単位削減率の推移



エネルギー使用原単位削減率の推移

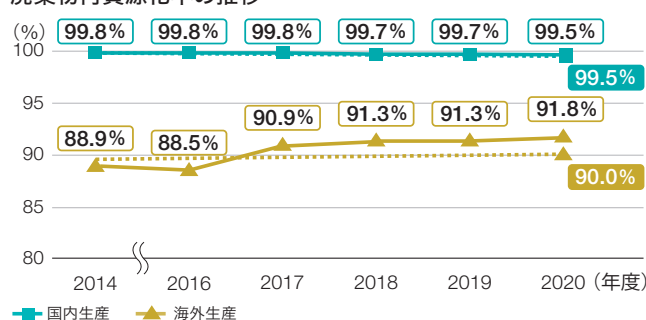


廃棄物排出原単位削減率の推移*1

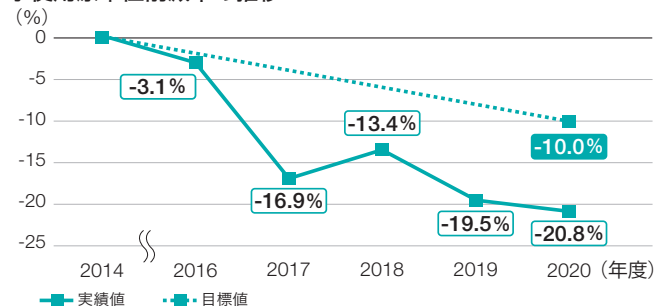


*1 2020年度より一部海外拠点が排水量に計上していた製品洗浄後の水を洗浄工程の実態を考慮して、廃棄物に計上することに変更しました。これにともない、廃棄物排出原単位削減率および再資源化率(海外生産)を過年度に遡及して修正しています。

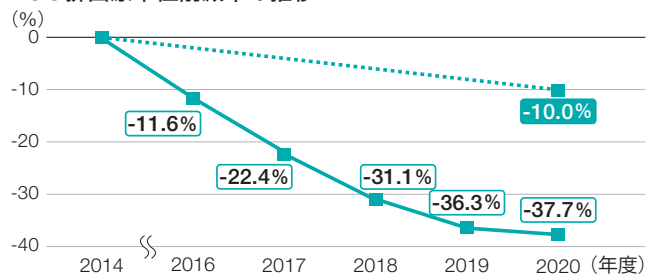
廃棄物再資源化率の推移*1



水使用原単位削減率の推移



VOC排出原単位削減率の推移*2



*2 精度向上のため、2014年以降のVOC排出量を修正しました。それにとり、VOC排出原単位を過年度に遡及して修正しています。

▶最新の排出ガス規制対応エンジン搭載製品(2020年度に市場投入した製品の例)



アグリロボトラクタ MR1000A(無人仕様)



トラクタ M7003シリーズ M7153(欧州)

エコ・ファースト企業として

クボタグループは2010年5月に、環境保全への取り組みを約束し、環境大臣より「エコ・ファースト企業」に認定されました。また、環境保全中長期目標に基づき、「エコ・ファーストの約束」を更新し、2017年10月に「エコ・ファースト企業」に再認定されました。



「エコ・ファースト企業」認定の詳細についてはこちらから
www.kubota.co.jp/sustainability/environment/ecofirst/



エコ・ファースト・マーク